

1 文(文章)で解答する設問の答案については、次のA項の加点要素の合計から次のB項・C項の減点要素の合計を引いた得点をその設問の得点とします。ただし最低点は0点としマイナスの得点はつけません。

A

a 以下の採点基準では、模範解答をいくつかの要素に分割し加点要素とします。答案中にその加点要素に相当する部分があれば、その加点要素に配点された得点を与えます。

b ある加点要素は、その加点要素に配点された得点か0点で採点することを原則とします。たとえば5点配点された加点要素であれば5点か0点で採点することを原則とします。その場合それぞれの採点基準の中に明記されていません。ただし、その加点要素中の部分点を認める場合もあります。その場合それぞれの採点基準の中に明記されていません。

c ある要素に加点するか否かが、他の要素と無関係に決まる場合と、他の要素との関係で決まる場合があります。前者の場合は、その要素を単独採点(独立採点)すると言いその旨必ず明記されています。後者の場合は、他の要素との関係について以下の採点基準で具体的に指示されています。

d **解答通り**という条件がある場合はいかなる部分点も認めません。

B

a 答案中に大きな誤読と判定される内容(語句)などがある場合は、その内容(語句)を減点要素として示されている場合もあります。

b 加点要素でも減点要素でもない部分もあります。その部分は加点も減点もしません。

C

次に該当するものは、答案の形式上の不備として、一箇所につき1点の減点要素とします。

a 誤字。漢字などの文字の明らかな誤りは誤字とします。

b 脱字。

c 文末の句点の脱落。

*字数指定のない場合、句点の脱落は誤字とし1点の減点とします。

d その他不適切と判断せざるをえない箇所。

e 不適切な文末処理。設問の問い方に対応していない形で答案の文末を結んでいない場合は、適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備による減点要素とします。

たとえば「:とはどういうことか?」という問いに体言で結んでいないものなどは適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備とします。

また、理由が問われているのに、「から」「ので」などで結んでいないものなども適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備と見ます。

*ただし、「ことである」などの表現も「こと」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また、「からである。」などの表現も「から」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。

また文末の表現を問わない場合もありますが、その場合はその都度明記されています。

2 日本語の表現として不適切なものは程度に応じて減点します。

3 次の各項に該当するものは、部分点の要素があっても、その設問の得点を0点とします。

a 答案が解答欄の欄外にはみ出しているもの。

b 一行の解答欄に二行以上書いた場合もその設問の得点を0点とします。

c 字数指定のある設問で、字数をオーバーしたもの。

d 答案の文章が最後まで完結していないもの。

4 **古文あるいは漢文の訳を記述する設問**の場合も以上に準じますが、文末の句点や文末の処理あるいは答案の完結にこだわらなくともよい場合はその都度明記されています。

問一 各2点 合計20点

- | | | | |
|---------|---------|---------|-------|
| a 象徴 | b 著名 | c 含蓄 | d トウタ |
| e 反(叛)旗 | f ジャツカン | g コウジヨウ | |
| h ヒンド | i センイ | j 墓標 | |

問二 14点

【模範解答例】地球上に発生した人間の文明の進歩は、(A3点)

それを生み出した原因に付随する異常な事態を抑制して適切な恒常性を保つという、
生物本来の自然環境への適応から (B9点)
逸脱しているから。(80字)(C2点)

◎採点のポイント

※ 地球上に出現した人間の文明が「正のフィードバック」という形で進展しているということを説明する設問。

A 傍線部が「人間(人類・ヒト)の文明」についての説明であることが、答案のどこかにあればよい。「地球上に発生した」はなくてもよい。単に「文明」なら1点。

B これは、地球の自然環境の中で適応的に進化(＝負のフィードバック)している生物本来のあり方を説明したもの。正のフィードバックについて説明し、それが生物本来の在り方に反しているという形で説明してももちろん差し支えない。後は説明の巧拙に応じて、加点・減点する。およその目安を示しておく。

a 「文明を生み出した原因の抑制」…3点

結果としての文明がその原因に対して抑制的に作用する・それができずに異常事態が生じる、そうしたニュアンスの説明があれば加点してよい。

b 「適切な恒常性を保つ」…3点

「現状が(を)維持される(する)」といった言い方は2点。

c 「生物本来の自然環境への適応」…3点

「自然環境への」に対応する説明がなく、単に「適応」としているものは1点。「自然」または「環境」のどちらかがしめされておればよい。

▼ ただ「結果が原因に対して促進的に作用する」という「正のフィードバック」についての本文の記述をそのまま使っている答案は、その個所に1点与えた上で、a・b・cにも加点する。もちろんa・b・cの要素を全て満たしているなら、それで9点であり、さらに1点を加えてはならない。

C Bとセットにしつつ答案を評価する。ともかく、生物本来の負のフィードバックに反している(矛盾している、そこから逸脱している)ということが答案に示されておればよい。

問三 各3点 合計6点

(1) IIウ (2) IIコ

問四 14点

【模範解答例】日本人である木村資生は、 (A 2点)

一神教の影響で (B 3点)

あらゆる物事に原因と結果の因果関係があるとして (C 4点)

偶然を排除する (D 2点)

西欧的な考えに囚われることがなかったから。 (70字) (E 3点)

◎採点のポイント

※ 木村資生が、西欧的な考え方に囚われていなかったということの説明を求める設問。

A 非西欧世界の人間ゆえに、因果関係に囚われず偶然性を許容する資質を持ち得たということが、答案のどこかに示されておればよい。傍線部そのものに「木村は日本人ゆえに」とあるから、答案でもう一度繰り返し返す必要はないのではないかと考えられるが、なぜ「日本人」であるが故に偶然性をすんなり受け入れたのかについての説明であるから、西欧人と日本人（非西欧世界の人間）との対比は、答案に必須である。

B 「一神教」は「ユダヤ・キリスト教」としていてもよい。

C 一神教を信仰する人々の考え方。これは答案に不可欠。事象、現象を因果関係という視点から捉えるという意味が読み取れさえすればよい。「全ての現象の原因を神とする」ということだけが述べられている場合は2点。

D Cを否定した上で「偶然（性）を許容する」としていてもよい。これも傍線部事態が含む内容であるが、明快な説明答案にはそのことをもう一度示しておくべきである。

E Aで述べた対比の明示である。他の個所に、因果関係に基づいて事象、現象を見るのが西欧的な考え方であることが示されていればそれでよい。「囚われることがなかった」についても、同様のニュアンスが答案中であればよい。単にCが西欧的な考え方であると言っているだけの答案には1点だけ与える。

問五 10点

【模範解答例】 進化の原因となる遺伝子の突然変異が (A 5点)

然淘汰上不利である場合。 (30字) (C 5点)

◎採点のポイント

A 「進化の原因となる(である)」が2点、「遺伝子の突然変異」が3点という目安で採点する。「遺伝子の突然変異」を「遺伝子頻度の変化」や「中立性突然変異(の偶然の挙動)」とするものはダメ。

B 「不利」はほぼ同意の別の表現でも可。例えば「有利ではなかった」など。

【模範解答例】

原因に対して結果が促進的に作用し続けたことにより、 (A 3点)

地球という環境に適応できなくなつて自滅に至つた (B 4点)

過去のヒトの文明を教訓として、 (C 3点)

文明の無謀な進歩を抑制し、 (D 2点)

安定的な恒常性を維持して (E 2点)

地球環境に適応すること。 (100字) (F 2点)

◎採点のポイント

※ 過去に自滅した人類の文明について、その原因が「正のフィードバック」、すなわち、「原因に対して結果が促進的に作用し続けたこと」で、地球という環境に適応できなくなった点にあることを答案に示す。その場合、「負のフィードバック」を忘れたこと、すなわち、「原因に対して結果が抑制的に作用しなかったこと」という形で、裏側から説明していてもよい。それがA・Bの内容。次に、そのことを現代の人類か教訓とすべきであることを述べる。Cの個所である。それを教訓とした時に明らかになる、人類の進むべき方向を答案に示す。それが解答例のD以下。

A 自滅した過去の文明がたどつた正のフィードバックについての説明。同等の内容が答案のどこかにあればよい。より具体的な説明でもよいが、その場合、説明内容が妥当であるかどうかをしっかりと吟味して採点する。例えば「文明を生み出した原因を吟味することなくそのまま一方的に拡大し続けた」といった説明ならもちろんOK。但し、そうした的確な説明答案はめつたにないと予想される。「一方的に変化し続け」とか「異常に進歩し(進歩し続け)」「異常に拡大し」というような答案が予想されるが、そうしたものには1点与える。単に「進歩」だけは不可。

B ほぼ同意ならよい。「地球」は「自然」あるいはなくてもよい。「自滅」は「滅亡」あるいは「滅んでしまった(いと)」「なごりでもよい」。

※「環境への不適応」に2点

※(右ゆえに)「自滅」「滅んだ」に2点

C 「教訓」がキーワード。類語なら可。「戒め」などももちろん可。「過去の過ちから学んで」「同じ轍を踏まないように」「過去の二の舞とならないように」といった説明でももちろんかまわない。

▼ここからのD・E・Fは人類が目指すべき「負のフィードバック」についての説明。

D 現在の文明に対する無反省な態度の再考というニュアンスが示されていればよい。かろうじて読み取れるという程度ならば、1点。「抑制」「抑制」のニュアンスがあれば2点。「反省」は1点。

また、「文明の発展を止める」は「無謀な文明の発展」の意味を表現しきれておらず1点。

E Dの「無謀な進歩」と対義的な内容の提示。「恒常性」はキーワード。同等の内容ならよいが、「恒常性」への言及がなく、「安定した状態」だけなら1点。(※「恒常性」という言葉がないときは最大で1点)

F 「地球環境」は「自然環境」あるいは「環境」だけでもよい。

二 古文 (60点)

問一

ア 9点

【模範解答例】

作者が瘧病のような病気で苦しんでいると、 (A 1点)

暑い折であるのに (B 5点)

律師が訪ねて来てくれて、 (C 1点)

僧たちとともに (D 1点)

病氣平癒のために (E 1点)

経を読んだり加持祈禱をしてくれたりする姿が暑くて大変そうである点。 (B)

◎採点のポイント

※Bが0点の場合は、他は得点できない。

※傍線部の「いとほしき」の意味「気の毒だ・かわいそうだ」は解答に必要ないが、あっても不問とする。

※「経を読む」は「読経」でもよく、「加持祈祷」は「加持・祈禱・祈り・お祈り」等でもよい。

※文末の「点」は、「様子・こと」でもよしとする。

A【1点】 作者が瘧病のような病気で苦しんでいると、

※Bが0点の場合は得点できない。ただし、誤字等で0点になっている場合は得点できる。

※「作者(母親)のために・作者(母親)が病氣なので」の意があればよい。

「自分」が明らかでない「自分のために」等は×。

※「作者(母親)のところへ来て」は×。

※「瘧病のような」の有無は不問。

B【5点】 暑い折であるのに、経を読んだり加持祈禱をしてくれたりする姿が暑くて大変そうである点。

※説明に「暑い」がある場合。

「読経」と「加持祈祷」がある「暑い中経を読み、加持祈祷する点・経を読み、加持祈祷するのが暑くて大変な点」は【5点】。

「加持祈祷」がなく「読経」がある「暑い中経を読む点・経を読むのが暑くて大変な点」は【4点】。

「読経」がなく「加持祈祷」がある「暑い中加持(加持祈祷・祈禱)する点・加持(加持祈祷・祈禱)するの

暑くて大変な点」は【4点】。

※説明に「暑い」がないが、「大変・つらい」等がある場合。

「読経」と「加持祈祷」がある「経を読み、加持祈祷するのが大変な点・経を読み、加持祈祷するの

がつらそう

な点」等は【3点】。

「加持祈祷」がなく「読経」がある「経を読むのが大変な点・経を読むのがつらそうな点」等は【2点】。

「読経」がなく「加持祈祷」がある「加持祈祷するのが大変な点・加持祈祷するの

がつらそうな点」等は【2点】。

※説明に「暑い」も、「大変・つらい」等もない場合。

「読経」か「加持祈祷」のいずれか、がある「経を読み、加持祈祷する点・経を読む点・加持祈祷する点」等は【1点】。

C【1点】 律師が訪ねて来てくれて、

※Bが0点の場合は得点できない。ただし、誤字等で0点になっている場合は得点できる。

※「律師」が来たこと、または、Bの「読経」や「加持祈祷」の主体が「律師」であること、または、Bの「読経」や「加持祈祷」が「律師」の前で行われていることわかればよい。

※「律師」とわからない「息子」等は×。

D 【1点】 僧たちとともに

※Bが0点の場合は得点できない。ただし、誤字等で0点になっている場合は得点できる。

※Bの「読経」や「加持祈祷」の主体に「僧たち」がいるとわかればよい。「たち」はなくてもよしとする。

E 【1点】 病氣平癒のために

※Bが0点の場合は得点できない。ただし、誤字等で0点になっている場合は得点できる。

※Bの「読経」や「加持祈祷」が病氣を治すための者であると分かればよい。

イ 9点

【模範解答例】成尋との別れが悲しくて (A 1点)

常々死んでしまいたいと思い、 (C)

病氣の時などは、 (B 1点)

今度こそ何とか死んでしまおうと願うのに、 (C 3点)

仏がその願いを聞き届けることがなく、

病氣が治るなどして命を保ってしまう点。 (D 4点)

◎採点のポイント

※「BC」か「BD」か「BCD」のいずれかの組み合わせが成立している場合に得点できる。

※傍線部の「恨みまほしう」の意味「恨めしい・恨みがましい」は解答に必要なが、あっても不問とする。

※文末の「点」は、「様子・こと」でもよしとする。

A 【1点】 成尋との別れが悲しくて

※Cが0点の場合は得点できない。ただし、誤字等で0点になっている場合は得点できる。

※「成尋との別れが悲しい(つらい)」の意があればよい。

※「成尋」は「息子・阿闍梨」でもよしとする。「律師・僧」は×。

B 【1点】 病氣の時などは、

※CもDも0点の場合は得点できない。ただし、誤字等で0点になっている場合は得点できる。

※Cの望み(死にたい)が生じるのが「病氣の時」とわかればよい。

C 【3点】 常々死んでしまいたいと思い、 今度こそ何とか死んでしまおうと願うのに、

※Dが0点の場合は得点できない。ただし、誤字等で0点になっている場合は得点できる。

※「死にたいのに」の意があればよい。

※「死にたいのに」の意がなく、「体調が悪いのに・病氣であるのに」等がある場合は【1点】。

D 【4点】 仏がその願いを聞き届けることがなく、病氣が治るなどして命を保ってしまう点。

※Cが0点の場合は得点できない。ただし、誤字等で0点になっている場合は得点できる。

※「仏」を使った説明があれば【4点】。

※「仏」を使った説明がないが、「命を保ってしまう・死なない」の意がある場合は【2点】。

※「仏」を使った説明がなく、「命を保ってしまう・死なない」の意があるが、「病氣が治らない・病氣が続く」

の意がある場合は【1点】。
 ※「仏」を使った説明も、「命を保ってしまう・死なない」の意もないが、「病氣が治る」の意がある場合は【1点】。

① 9点

【模範解答例】

どうして私は、 (A 3点)
ほんの片時生きている短い間でさえ、 (B 2点)
つらいこの世を (E 2点)
このように (D 1点)
ひどく (C 1点)

嘆かずにはいられないのだろうか (A)

◎採点のポイント

A 【3点】 などか、 ～ 嘆かであらで ↓ どうして私は、 ～ 嘆かずにはいられないのだろうか

※「嘆かずにいたい」の意の有無は不問。

B 【2点】 片時の生きたるほどだに、 ↓ ほんの片時生きている短い間でさえ、

※「生きている」の意がない場合は×。

※「さえ」は「だけでも・すら」でもよい。「のに・にもかかわらず」は×。

「さえ・だけでも・すら」がない「ほんの片時生きている短い間に」等は【1点】。

※「さえ・だけでも・すら」があるが、「ほんの片時・短い・少し・わずかに」等の意がない「生きている間でさえ」等は【1点】。

※「成尋(息子)と離れている」という形容がある場合は「さえ」や「短い」があっても×。

C 【1点】 いと ↓ ひどく

※Aに「嘆く」があり、それに係る意味ととれる場合、もしくは、Eが得点できていて、それに係る意味ととれる場合に得点できる。

※「たいそう・大変」等でもよい。

D 【1点】 かく ↓ このように

※Aに「嘆く」があり、それに係る意味ととれる場合、もしくは、Eが得点できていて、それに係る意味ととれる場合に得点できる。

※「こんなに・こんなにも」等でもよい。「この」は×。

E 【2点】 憂き世 ↓ つらいこの世を

※「つらい」は「憂いが多い・苦しい・悲しい」等でもよい。「この世」は「世の中・現世」等でもよい。

「つらい」の原因としての「成尋に会えない・成尋と別れなくてはならない」等の説明の有無は不問。

※「つらい」に相当する表現がない「この世・世の中・現世」等は【1点】。

※「この世」を「運命」等としている場合は×。

② 9点

【模範解答例】

- 成尋本人からの (A 2点)
手紙でもあれば (B 1点)
確かにそうだと納得するしかないが、それもないので、 (C 2点)
成尋が八月二十日過ぎに宋へ向かう船に乗ったというのは、 (D 2点)
本当なのだろうか、 (E 1点)
嘘なのだろうか (F 1点)

◎採点のポイント

A 【2点】 「補い」 ↓ 成尋本人からの

※Bが×の場合は得点できない。ただし、誤字等で×になっている場合は得点できる。

※Bの「手紙」が「成尋」のものであると分かればよい。解答全体(特にEなど)から「成尋」と分かれば、こは「本人からの・本人の」等でもよい。

「成尋」は「阿闍梨」でもよい。「成尋」であることが明らかにならない「息子」は【1点】。「律師・僧」は×。

B 【1点】 文などもあらばこそは。 ↓ 手紙でもあれば

※「手紙があつたら・手紙があれば」の意があればよい。

「手紙さえあれば・手紙だけでもあつたら・手紙を送ってくれたら・手紙を出してくれれば」等でもよい。
※「手紙」は「連絡」でもよしとする。

C 【2点】 (文などもあらばこそは。) ↓ 確かにそうだと納得するしかないが、それもないので、

※「納得する・分かる」の意があれば【2点】。「確かにそうだと・事実が・本当か嘘か」等の有無は不問。

※「納得する・分かる」の意がなく、「よい」の意がある場合は【1点】。
※「それもないので」の有無は不問。

D 【2点】 「補い」 ← 成尋が八月二十日に宋へ向かう船に乗ったというのは、

※「成尋が宋へ向かった」、または「成尋が船に乗った」、または「成尋が宋へ向かう船に乗った」の意があれば【2点】。

※「八月二十日に」の有無は不問。

※「成尋」は「阿闍梨・息子」、「宋」は「唐・中国」、「向かった」は「渡った・出発した・出立した」等でもよい。

※「成尋(阿闍梨・息子)」が明らかでない、「宋へ向かった・船に乗った・宋へ向かう船に乗った」は【1点】。

E 【1点】 まことにやあらん、 ↓ 本当なのだろうか、

※推量(だろう・であろう)がない「本当なのか・本当であるのか・本当のことか」等でもよい。

F 【1点】 そらごとやあらん ↓ 嘘なのだろうか

※推量(だろう・であろう)がない「嘘なのか・嘘であるのか」等でもよい。

※「(本当か嘘か)わからない」の意の有無は不問。

(A) 9点

- 【模範解答例】成尋との別れを嘆き悲しみながら (A 2点)
命を落としてしまうようなことは (B 2点)
残念に思われて、 (C 2点)
言い残すような言葉も (E 2点)
まったく思いつかないほどである。 (D 1点)

◎採点のポイント

A 【2点】 嘆きわび ↓ 成尋との別れを嘆き悲しみながら

※「成尋」は「阿闍梨・息子」でもよい。「成尋との別れを」がない場合は【1点】。

※「嘆き悲しみながら」は、「嘆く・悲しむ・つらく思う」等の意が一つあればよい。

※「～ながら」は、「～て～つつ」等でもよい。

※「～ながら」が正しくない場合(～ながらも・～ても・～のに等)

「成尋との別れを嘆く」があれば【1点】。

「嘆く」はあるが、「成尋との別れを」がない場合は×。

B 【2点】 絶えん命は ↓ 命を落としてしまうようなことは

※1 「絶えるような命は・命が絶えるようなことは」等でもよい。「絶える」は「死ぬ・終わる」等でもよい。

※1の「絶える」「死ぬ」「終わる」意はあるが「ような」(婉曲)がない場合は【1点】。

※「命が絶えない・命が絶えることがない・命が終わらない」の意となっている場合は×。

※「命」を「蟬の命」としている場合

1の意があり、「ような」(婉曲)もあれば【1点】。

1の意はあるが、「ような」(婉曲)がない場合×。

C 【2点】 口惜しく ↓ 残念に思われて、

※「残念だ・情けない・悔しい」の意があれば【2点】。

※末尾は「残念で、」のようでもよく、「残念だ・残念だなあ。」のようでもよい。

ただし、「残念なことに・悔しいことに・情けないことに」のように後方へ係る意になっている場合は【1点】。

※「とても・たいそう」等の形容の有無は不問。

※「残念だ・悔しい・情けない」の意がなく、「つらい・悲しい」等の意がある場合

「つらくて・悲しくて」・「つらい・悲しい」・「つらいなあ・悲しいなあ」等であれば【1点】。

「つらいことに・悲しいことに」のように後方へ係る意になっている場合は×。

D 【1点】 つゆ ～ (なし) ↓ まったく ～ (ない)

※「少しも・何も・一つも」等、打消表現と呼応して全否定する意があればよい。

E 【2点】 言ひ置かん言の葉もなし ← 言い残すような言葉も思いつかないほどである。

※「言い残すような言葉もない」の意があればよい。「思いつかないほどである」は「ない」でよい。

※右の意はあるが「ような」(婉曲)がない場合は【1点】。

※「言い残すような言葉」が「遺言」となっている場合は【1点】。

(B) 9点

【模範解答例】

- 成尋との別れが悲しくてつい泣かれ、 (A 2点)
 滞ることなく涙の川は流れ続けるけれど、 (B 2点)
 悲しみの思いの火は (C 1点)
 その水で消えることもなく、私の胸を焼き焦がし、 (D 2点)
 私は成尋に恋い焦がれるのです。 (E 2点)

◎採点のポイント

A 【2点】 「補い」 ↓ 成尋との別れが悲しくてつい泣かれ、

※「成尋との別れがつらく」の意があればよい。「成尋」は「阿闍梨・息子」でもよい。「つい泣かれ」はなくてよい。

※「成尋」は「阿闍梨・息子」でもよい。これが明らかでない「別れがつらく」は【1点】。

※「別れが」も明らかでない、単なる「つらくて・悲しくて」等は×。

B 【2点】 淀みなく涙の川はながるれど ↓ 滞ることなく涙の川は流れ続けるけれど、

※「流れ続ける」は「流れる」でよい。

※「滞ることなく」は「絶えることなく・止まることなく・留まることなく・とめどなく」などでもよい。

「淀みなく」のままになっている場合や、これに相当する訳がない場合は【1点】。

※「涙の川」は「涙」でもよい。

※「涙は絶えることがないが」のように「流れる」の意はなくてもよしとする。

※文末が逆接(けれど・けれども・が・のに・しかし等)になつていない場合

「滞ることなく涙は流れる」の意があれば【1点】。

「涙は流れる」の意はあるが、「滞ることなく」に相当する訳がない、または、「淀みなく」のままになっている場合は×。

※涙の主体である「私」の有無は不問。

C 【1点】 思ひぞ ← 悲しみの思いの火は

※「思いの火」という表現(「思ひ」の「ひ」に「火」が係っている)があればよい。

「悲しみの」等の有無は不問。「思い」は「想い」でもよい。

※「思い」を「成尋(阿闍梨・息子)への思い・成尋(阿闍梨・息子)を思う」と等とすることに對する採点(配点)はEで行う。

D 【2点】 胸をやくところがる ↓ その水で消えることもなく、私の胸を焼き焦がし、

※「その水で消えることもなく、」や「私の」の有無は不問。

※1 「胸を焼く」の意があれば【1点】。

※2 「胸を焦がす」、または「胸が焦げる」の意があれば【1点】。「焦がれる」ではDの得点にはならない(Eで採点する)。

※「るる」を助動詞(「る」の連体形)として訳している場合 (「こがる」は「こがる」の連体形)

1も2もできている(本来は2点となるべき)「胸を焼き焦がすことが×できる」のような解答は【1点】とする。

1か2のいずれかだけができている(本来は1点となるべき)「胸を焼くことが×できる」のような解答は×とする。

※「胸が熱くなる」は、1にも2にも代用できることとするが、1と2の両方の代用にはならない(「熱くする」だけで2点にはならない)こととする。

E 【2点】 (胸をやくところがる) ↓ 私は成尋に恋い焦がれるのです。

※1 「焦がれる・恋しく思う・慕う・待ち焦がれる」等の意があれば【1点】。「胸を焦がす・胸が焦げ

る」ではEの得点にはならない（Dで採点する）。

※2 「焦がれる」の対象が「成尋（阿闍梨・息子でもよい）」であることが明らかであれば【1点】。

Cの箇所「思い」を「成尋（阿闍梨・息子）への思い・成尋（阿闍梨・息子）を思う」と等としている場合は、これを2と同等に扱って【1点】とする。ただし、「成尋（阿闍梨・息子）」が明らかでない「恋しい人への思い・大切な人への思い」等は×。

問四 2点×3（計6点）

蜻蛉日記 紫式部日記 更級日記 （他に、和泉式部日記・讃岐典侍日記など）

◎採点のポイント

※「蜻蛉日記・紫式部日記・更級日記・和泉式部日記・讃岐典侍日記」が正解候補。

漢字で正しく書かれていれば、一つ2点。漢字で書けていない場合や、誤字になっている場合は×。

三 漢文(60点)

問一 各2点×3＝計6点

a いにしへ

b のみ

c こたへて

※カタカナは× 0点

※現代かな遣い、「a」「いにしへ」、「c」「こたえて」は△ 1点減点

※b「のみと」、「のみ(と)」は○とする。

※c「こたふ」「こたう」は× 0点

問二 6点

【模範解答例】

あなたの意見では過ちを君主に押しつけているが、
私は罪は臣下の側にあると思う。(A 3点)
(B 3点)

◎採点のポイント

A 「公の意は過ちを主に推すも」の解釈 3点

※「公」は「あなた」。ここを間違っているものは△ 2点減点

「公衆は」「世間は」「一般民衆は」「公(おおやけ)には」「皇帝は」など誤り。

※「公の意は」の「意」の意が欠けて、単に「あなたは」となっている可。

※逆に「意」を「意見・考え・見解」などではなく、「意志」など、意味を取り違えている場合は△1点減点

※「過ち」はそのままよいが、次のように内容を言っていない可。

「失政を」「失政の原因を」「乱が多いことを」など。

※「主」は「君主・主君・王・皇帝」あるいは「幼主」。

「主人」は△ 1点減点

※「推す」は「押しつける」「くのせいにする」「くの責任とする」「くの側にある」「くに見出している」など。

B 「朕は則ち罪を臣に帰す」の解釈 3点

※「朕」は「私」。ここを間違っているものは△ 2点減点

「皇帝は」「王は」「皇帝自身は」など誤り。

※「則ち」は訳さなくて可。「しかし」「それならば」など訳してあっても可。

「すぐに」は× 1点減点

※「罪を臣に帰す」は「罪は臣下にあるとする(考える)」ということ。

※「臣下に罪を帰する」「臣下のせいにしてしまおうとする(思う)」などは× 2点減点

問三 6点

【模範解答例】

此れ豈に臣下の過ちに非ずや。

◎採点のポイント

- ※すべてひらがなにしているものは× 0点
- ※読み順が返り点どおりでなく、間違っているものは× 0点
- ※読み方が間違っていないければ、部分的にひらがなにしているてもよいが、読み方が間違っていれば減点。
- ※「此れ」は「此(これ)は」でも可とする。(豈・非もひらがなでも可)
- ※「此(こ)の」は△ 2点減点
- ※「豈に……非ずや」は詠嘆形。反語形の「豈に……非ざらんや」にしている場合は△ 2点減点
- ※「臣下の」の「の」や、「非ずや」の「や」がひらがなになっていないものは× 0点
- ※「豈(あ)に」が読めていないものは× 0点

問四 10点

【模範解答例】

- 功臣たちが自分の子や孫に、 (A 2点)
- 祖先の勲功によって高官でいられることを自覚し、 (B 1点)
- ぜいたくを好まず、 (C 1点)
- 徳義を修め、 (D 1点)
- 正しい道を踏みはずして罪を犯すことなく、 (E 2点)
- 君主をよく補佐するように (F 1点)
- 戒めること。 (G 2点)

◎採点のポイント

- A 「公等の子弟を戒勗して」の「公等」が「子弟を」の要素 2点
- ※「功臣たちが」は、「臣下(たち)が」「房玄齡ら(の臣)が」でも可。これが主語になっていないものは△ 1点減点
- ※「自分の子や孫に」は「自らの子弟に(を)」のように「子弟」のままでも可。
- ※「官職にある者たちの子弟を」「臣下たちの子弟を」でも可(1点)とする。
- ※「功臣の子弟が」という主語にしてあるものも、「子弟」の要素文1点は与える。
- B 「祖父の資蔭に籍りて遂に大官に処り」の要素 1点
- ※「祖先の功績によって高官に居ること」を「自覚する(知る)」ことが言えていること。
- ※「祖父」は注あり。「祖父」や「父」は× 0点
- C 「奢縦を是れ好む」の要素 1点
- ※「ぜいたくを好ま」ないようにする、ということが言えていること。
- D 「徳義は修めず」の要素 1点
- ※「徳義を修め」るようにする、ということが言えていること。
- E 「愆犯無からしめん」の要素 2点
- ※正しい道を踏み外すことなく 1点

※罪を犯すことなく 1点

※「愆犯」の注をそのまま用いればよい。

F 「顛るるも」扶けず」の要素 1点

※「扶け」られるようにせよ、ということが言えていること。

※「君主を補佐する」「国を支える」など。

G 「戒勗」の要素 2点

※(注)があるので、そのまま用いればよい。

※「戒める」こと、あるいは「つとめ励ます」ことのどちらかでも可。

問五 8点

【模範解答例】

君子は受けた恩を忘れないが、小人は受けた恩を忘れる。(A)

楊玄感も宇文化及も、(B 2点)

受けた君恩を (C 2点)

忘れて主君に背いた点で、(D 2点)

人徳や器量の乏しい小人物である (E 2点)

ということ。

◎採点のポイント

A 「君子は乃ち能く徳を懐ひ、小人は音を荷ふ能はず」の要素

※C・Dでこの内容が言えていれば、不問とする。

B 「玄感・化及の徒」の要素 2点

※二人並べていなければ(片方のみでは) × 2点減点

※言及していないのも2点減点

※「子孫皆反す」とはあるが、「玄徳・化及の子孫は」は× 2点減点

C 「隋の大臣にして恩を受くること深き者なり」の要素 2点

※解答例は「受けた恩を」と簡単にまとめたが、「隋の大臣として十分に恩を受けておきながら」のように詳述してあっても可。

D 「恩を荷ふ能はず」と「子孫皆反す」の要素 2点

※「(受けた恩を) 忘れて」の要素 1点

「恩を受け止めることなく」などはこの部分加減無し

※「主君に背いた」「反乱」の要素 1点

※「―という点で」の形が欠けているもの 1点減点

E 「小人なり」の要素 2点

※「小人」のままは△ 1点減点

※「人物や器量の乏しい(ない)人物」「つまらぬ人物」「小人物」などで○

F 文末の「〜ということ」は不問

【模範解答例】房玄齡は、(A 2点)

後継の幼君が (B 2点)

宮殿でちやほやされて富貴の中で成長するために、 (C 2点)

世情の裏表を知らず、 (D 2点)

国を治める力がないため (E 2点)

と考え、 (D)

太宗は、 (F 2点)

臣下たる功臣の子弟たちが (G 2点)

先祖の勲功によって高官の地位に登り、 (H 2点)

多くは才能もなく品行にも欠けるのに (I 2点)

徳義を修めず、 (J 2点)

ぜいたくに溺れて、 (K 2点)

臣として君主を支える力がないため (L 2点)

と考えている。(149字) (F)

◎採点のポイント

A 「房玄齡は……と考え(ている)」 2点

B 「幼主の」に相当する語 2点

※ 「幼い君主が」「後継者が(幼く)」「子孫が」「君主は」など○

C 「深宮に生長し、少なくとも富貴に居るが為に」の要素 2点

※ 「宮殿で成長する」要素 1点

「富貴の中で成長する」要素 1点

D 「人間の情偽(を識らず)」の要素 2点

※ 「人間(人間の世)」「情偽(真実と偽り)」。うらおもて」とともに注あり。
「真実」と「偽り」の2つがそろって2点。

E 「国を理むるの安危を識らず」の要素 2点

※ 国を治める力がないことが言えていればよい。

F 「(一方)太宗は……と考えている」 2点

G 「功臣の子弟は」に相当する語 2点

※ 「功臣の子孫たちは」「臣下が」「高官の子息たちが」など○

H 「祖父の資蔭に籍りて遂に大官に処り」の要素 2点

※ 「祖父の資蔭(先祖の勲功)」は注あり。「先祖の威厳」は1点

J 「多く才行無く」の要素 2点

※ 「才」がない要素1点

「行」に欠ける要素 1点

K 「奢縦を是れ好む」の要素 2点

※ 「ぜいたくを好む」意。

※ 「おごりたかぶる」意ととっているものは△ 1点減点

L 「願るも扶けず」の要素 2点

※君主を支える力がないことが言えていればよい。
主君に仕える力がない 1点

※「功臣の、子弟への教育がなされていない」などに言及しているものは減点はしないが加点はしない。